

NIIの学術コンテンツ事業紹介

2016.5.27

国立情報学研究所

学術基盤推進部学術コンテンツ課長

細川 聖二

平成28年4月よりSINET5の運用開始

大学などの学術研究・教育活動の連携・推進

学術情報の公開・共有

- ◆ 学術情報流通と オープンアクセスの推進
- ◆ 大学の 機関リポジトリ 拡充の推進



大学間連携支援

- ◆ 仕様統一したシステムによる 大学間連携、各種資源の相互利用の促進



クラウド活用支援

- ◆ クラウド利活用促進による 大幅なIT経費削減・研究教育環境の高度化



セキュリティ強化

- ◆ 暗号技術活用による 情報の保護、安全な認証
- ◆ ネットワーク機能連携による サイバーアタック対策



学術情報ネットワークの構築・運用

- ◆ 国内回線 全国100Gbps化
- ◆ 海外 (米国・欧州・アジア) との高速接続
- ◆ 多様化するニーズに応えるSDNなどの 最新ネットワーク技術の導入



学術コンテンツ事業の現状

学術情報センター以来、30年以上に亘って、大学図書館等と連携しながら、多様な学術コンテンツを確保し、整備し、提供する事業を展開

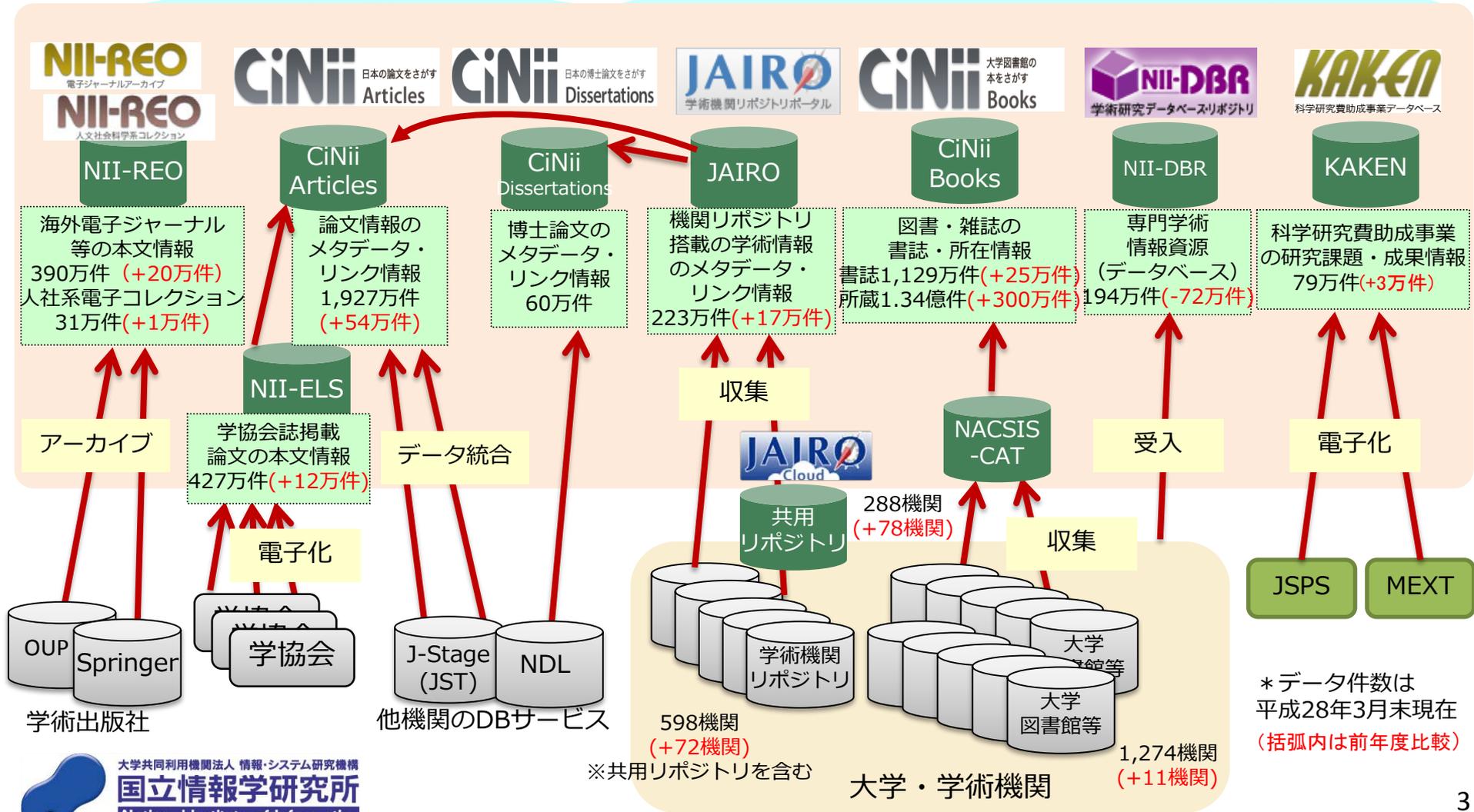
論文情報

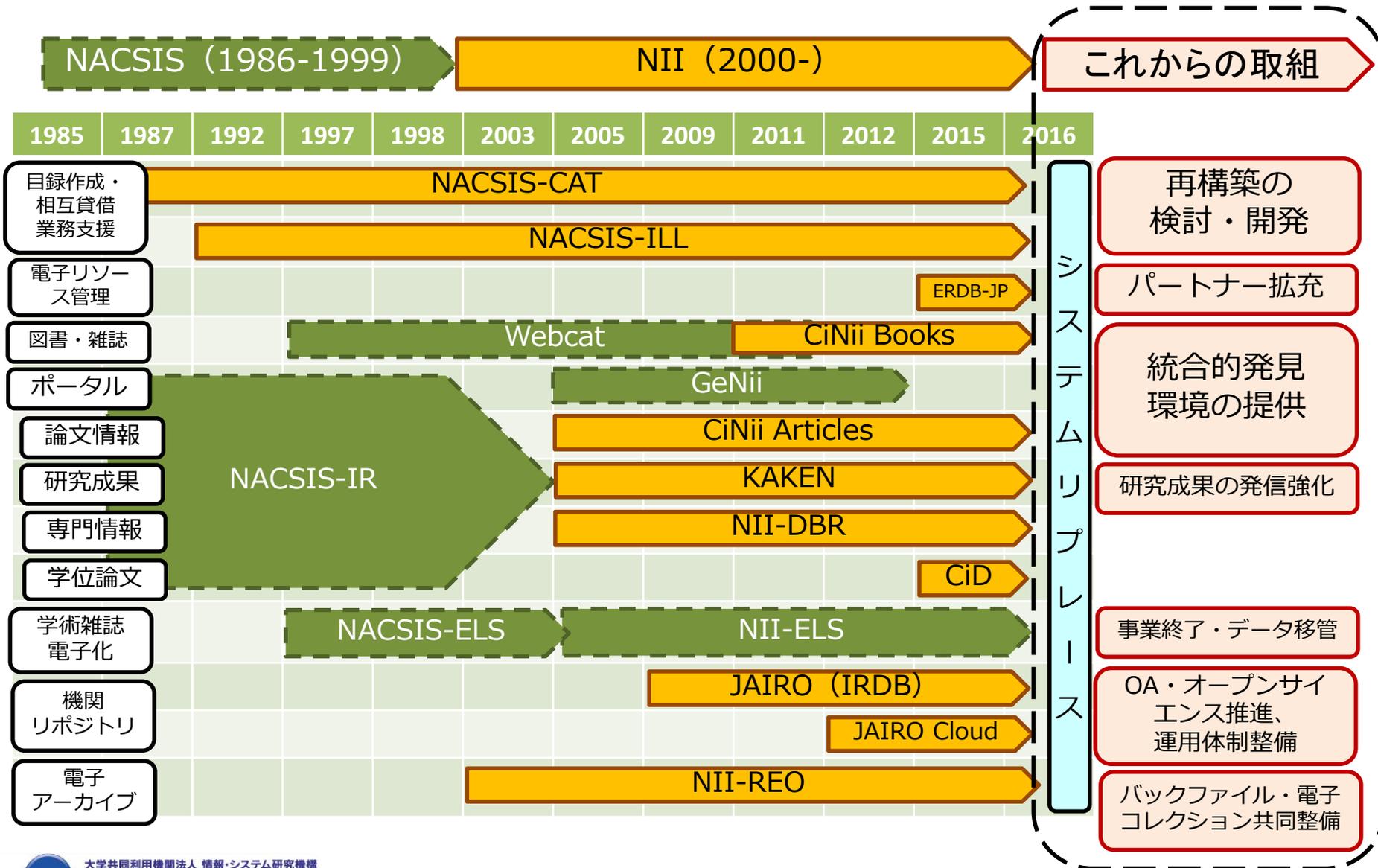
機関発信情報

図書・雑誌情報

専門学術情報

研究情報





□各サービスの課題

- NACSIS-CAT/ILL：平成32（2020）年を目指して再構築
- JAIRO Cloud：運営体制の整備（**新協会での共同運営**）と高度化（**研究データ対応**）
- CiNii：サービスのフロントとして集中化・高度化（**研究データ対応含む**）
- KAKEN：JSTとの共同開発・連携を通じて研究助成成果の公開促進

□事業体制

- 人的リソースの不足：大学等との人事交流の促進、連携・協力体制の一層の強化

□事業予算

- 学術情報基盤（SINET5）の一機能として一体的に予算要求（**厳しい財政状況**）

□関係機関との連携とデマケ

- 大学図書館との関係：対等かつ強固な連携・協力関係の構築
- 他の情報関連機関（JST,ND L等）との関係：連携強化と役割分担の明確化

□学術情報政策との関連

- 科学技術・学術審議会 学術分科会 第8期学術情報部会での検討状況
「学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）」（H28.2.26）
- オープンサイエンス推進のための研究データ基盤への取組

□NACSIS-CAT軽量化・合理化の基本方針案

1. 書誌作成機能（NACSIS-CAT）の軽量化・合理化
 - 書誌作成と書誌管理作業の軽減
 - データ構造の見直しによる合理化
2. 書誌利用（検索）機能（含むNACSIS-ILL）の強化
 - 紙と電子の統合的検索環境の提供
 - 「名寄せ」による重複書誌データの管理
3. 実現に必要な措置
 - 運用の見直し（外部機関作成書誌データの活用、レコード調整の廃止）
 - システムの改修（CAT/ILL本体、ローカルシステム）
4. 平成32（2020）年以降の展開
 - 電子情報資源を含む総合目録DBの強化と利用者の検索環境の向上

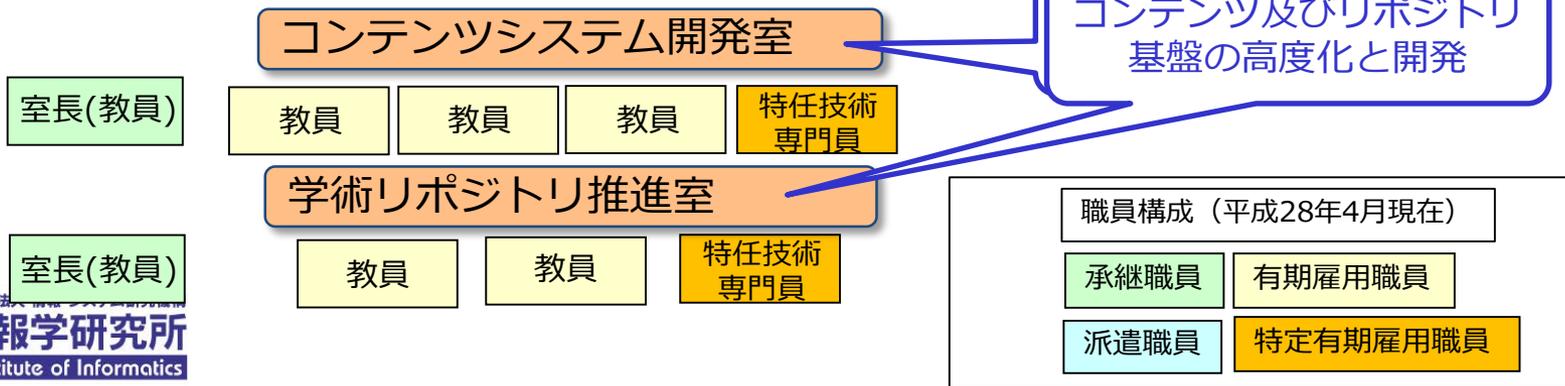
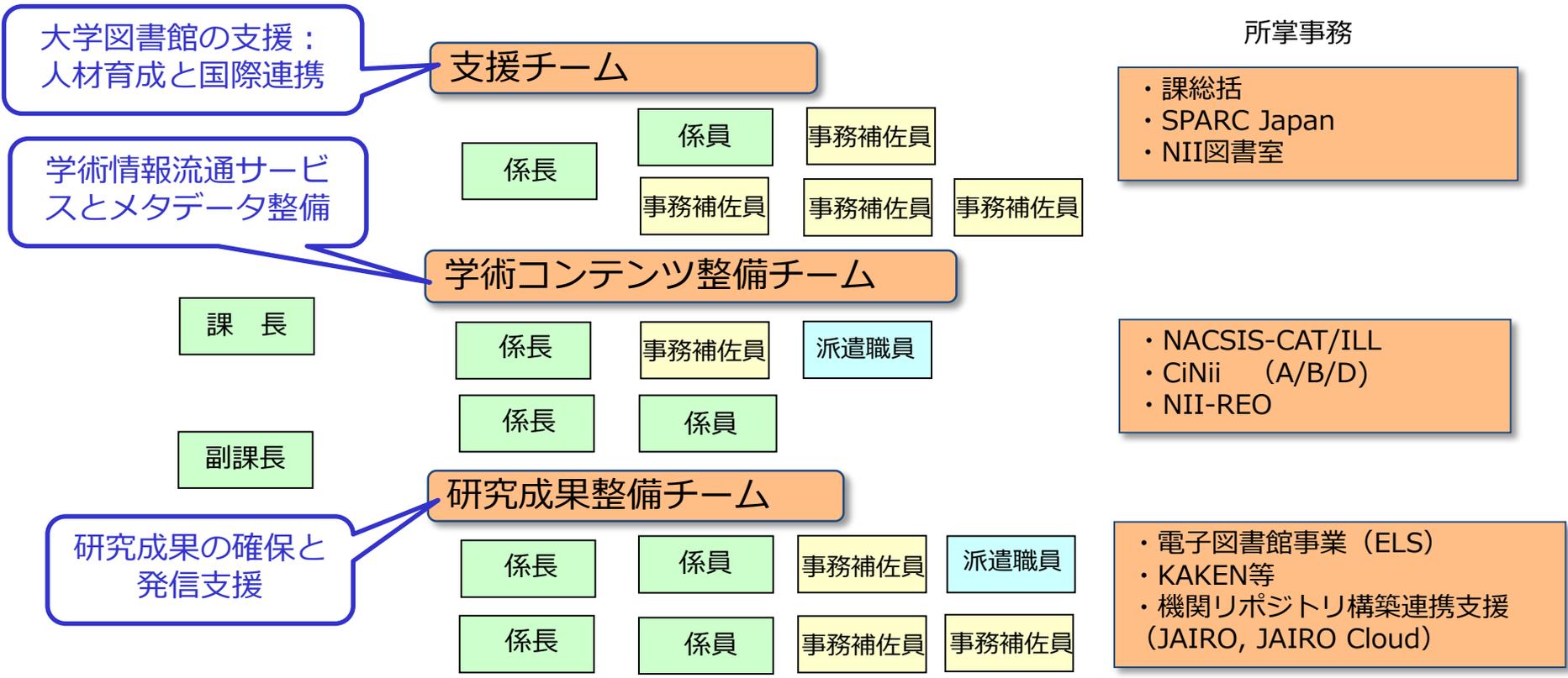
CAT/ILLの再構築それ自体が目的ではなく、
「これからの学術情報システム」の構築・
検討が目指すべきところ

□学術機関リポジトリ構築連携支援事業の基本方針

- 「連携・協力推進会議」の下に設置された「機関リポジトリ推進委員会」の活動を軸に、NIIと大学図書館との連携を継続する。
 - 「大学の知の発信システムの構築に向けて」が当面の行動指針
- JAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）の普及推進を重点的に行うとともに、既存リポジトリからのJAIRO Cloud移行も積極的に受け入れる。
- 国内の機関リポジトリ関連組織を統合再編した、新協会「オープンアクセスリポジトリ推進協会」を平成28年7月に設立予定。今後は新協会を中心に、JAIRO Cloudの共同運用やオープンサイエンス推進も含めた機関リポジトリの推進活動を展開していく

「オープンアクセスリポジトリ推進協会」への参加意向と設立総会への参加受付中。

事業体制図（平成28年度）

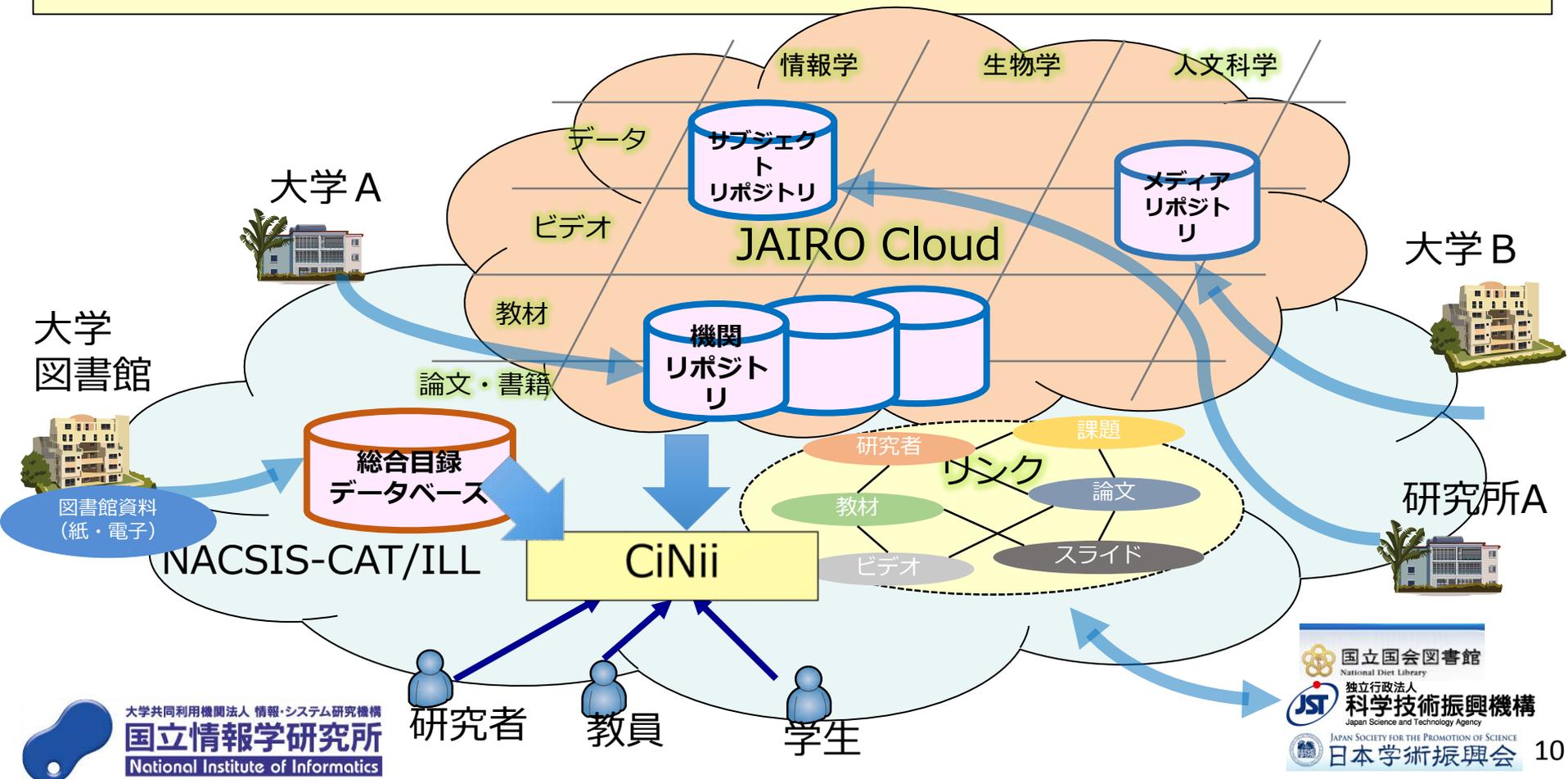


これからの学術情報システム基盤のあり方

大学・大学図書館等と連携しながら、多様な学術コンテンツを確保し、整備し、提供する事業を展開

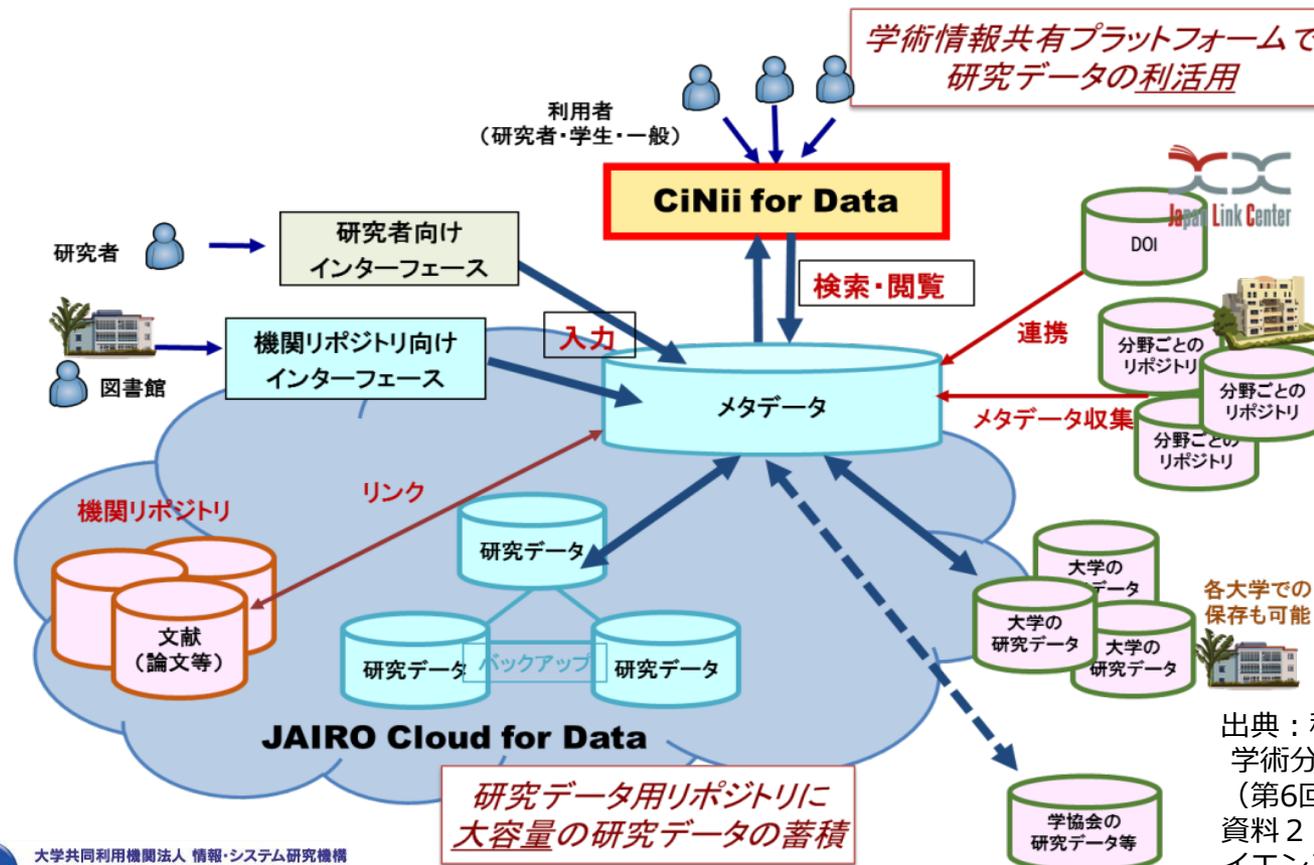
- ◆ JAIRO Cloudの拡充による多様な教育研究成果の収集
- ◆ NACSIS-CAT/ILLの再構築を端緒とした多様な図書館資料へのアクセス環境の整備
- ◆ CiNiiの高度化による多様な学術コンテンツへの統一的アクセス手段の提供

→3本柱を中心とした「これからの学術情報システム基盤」の構築を検討



オープンサイエンスを推進するため、研究データを公開・共有する基盤整備に向けた検討に着手

- ◆ JAIRO Cloudを強化し、論文に付随する研究データ等を搭載する機能、大容量化するデータも格納できるJAIRO Cloud for Dataの開発・提供
- ◆ 論文情報とJAIRO Cloud for Dataに蓄積された各種研究データを統合した総合的発見サービスCiNii for Dataのプロトタイプ構築および試験提供



出典：科学技術・学術審議会
学術分科会 第8期学術情報委員会
(第6回)
資料2 「NIIにおけるオープンサイエンスへの取り組みと課題」
(平成28年1月22日)

□平成27年度実績

筑波大学 電子リソースの利用統計の収集・分析とその活用方法に関する調査 (JUSTICE)

□平成26年度実績

新潟大学 電子ジャーナル契約見直しに関するモデルケース作成にむけた調査・検討 (JUSTICE)

□平成25年度実績

広島大学 機関リポジトリ等に集約された多様なデータを、ユーザに提供するための情報検索についての考察 (学術コンテンツ課)

お茶の水女子大学 学認を用いたシングルサインオンによる全学システム整備に関する調査・検討 (学術基盤課)

□平成24年度実績

琉球大学 IRDBコンテンツ分析システムを用いデータ分析を通じた機関リポジトリの現状把握 (学術コンテンツ課)

大阪大学 電子情報資源を含む学術情報発見システム構築に向けた調査・検討 (学術コンテンツ課・JUSTICE)

□平成23年度実績

鳴門教育大学 オンライン共同分担目録方式の最適化に向けた大学図書館の観点からの調査・検討 (学術コンテンツ課)

一橋大学 電子ジャーナルバックファイル等の国レベルでの整備に向けた調査・企画 (JUSTICE)

大阪大学 電子資料契約実務必携の作成, 出版者からの提案書の標準化 (JUSTICE)

明治大学 電子リソース利用統計のコンソーシアムによる活用に向けた調査・検討 (JUSTICE)

国立情報学研究所
平成28年度 教育研修事業

実務研修生募集

JUSTICE事務局と出版社の交渉

JUSTICE事務局での実務

閉講式にてお世話になった皆さんと

研修テーマに関する聞き取り調査

成果報告会

NII 国立情報学研究所
National Institute of Informatics

JUSTICE 大学図書館
コンソーシアム連合

平成28年度も受入予定あります

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/jitsumu/index.html>